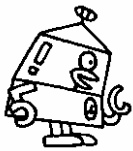


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の発芽と成長 / 理解シート

ほんば ふた葉と本葉になるところは、どちがうの



はつが 発芽したとき出る厚いふた葉は、たねの養分がふくまれている部分なので、後から出るふつうの葉（本葉）とはちがうよ。

発芽で、ふた葉が出る植物は多い

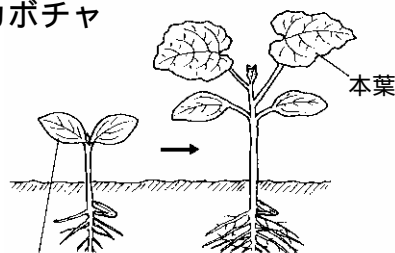
インゲンマメ、ヘチマ、カボチャ、ハウセンカ、ダイコン、コマツナなどのたねをまくと、発芽して地上に出てくるのは、厚みのある2まいの葉（ふた葉）です。やがて、ふた葉の間から、それぞれの種類によって少しずつちがう、ふつうの葉（本葉）が出てきます。その後は、どんどん成長を続けて本葉がたくさん出そろい、大きく育っていきます。それにつれて、最初に出てきたふた葉は、だんだんちぢんで小さくなったり、黄色くかかれてしまったりします。

ふた葉には、たねに用意されていた養分がふくまれている

たねは、土がなくても水とちょうどよい温度があれば、発芽します。たねの中に発芽に必要な養分が用意されているからです。最初に出たふた葉は、たねの中の養分がふくまれていた部分なのです。だから、ふた葉の1まいを切り取ったりすると、その後、成長がおそくなったり、成長できずにかかれてしまったりします。

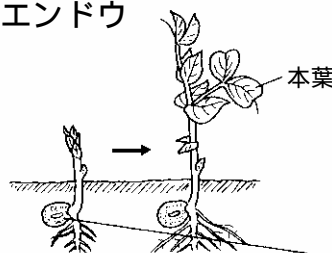
トウモロコシやイネなどは、発芽のとき細長い1まいの葉が出て、ふた葉は出ません。エンドウやソラマメも、ふた葉が出ないで本葉が出てきます。これらの植物を調べると、たねの養分がふくまれていた部分は、地中に残っています。

カボチャ



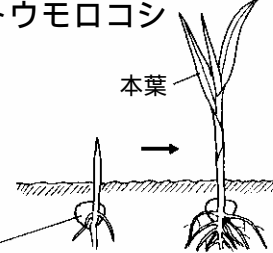
ふた葉（養分がふくまれていた部分）

エンドウ



養分がふくまれていた部分

トウモロコシ



本葉

もっと知りたい人へ：「インゲンマメとトウモロコシの、たねのちがいを教えて」も見てみよう。